

おもいやり通信

発行:社会福祉法人 清水保育園
幼保連携型認定こども園 清水こども園
発行日:令和3年9月1日

第41号

緊急事態宣言が延長され心配な日々が続きますが、子ども達の思いやり行動を見かけると心がほっとして和らぎます。コロナ禍の中、緊張した心をほぐしてくれる「思いやり」について、ご家庭で話をしてみてもいいのではないでしょうか。お子様からたくさんの「思いやり」についての話が聞けるといいですね。



今年度のメイン活動

<思いやりカルタづくり>

今年度は、保護者の皆様の協力をいただきながら「思いやりカルタ」を制作していきます。

※「思いやりカルタ」は、平成25年度に思いやり活動の一環として、保護者の皆さんから、読み札の文句や思いやり写真を募集して、園で1度作成したことがあり、現在も子どもたちが遊んでいます。8年ぶりに新しい「思いやりカルタ」を作りたいと思います。

ご家庭へのお願い

三つの期間（あ～さ行：4～7月、た～は行：8～9月、ま～わ行：10～12月）に分けカルタの読み札と写真・イラストのアイデア募集を行っていきます。

前回、「あ～さ行」の募集ではご協力ありがとうございました。現在、「た～は行」について募集をしています。親子で考えてどしどし応募して下さい。

カルタ アイディア募集
(た～は行)
締切 9月30日



思いやりカルタ大会の様子

心が温まる思いやりエピソード

今年度のテーマは「ふわふわことばと、ちくちくことばをかんがえよう」です。少しずつ子ども達の心にもこの言葉が届いているようです。アンパンマンのDVDを観ている時、バイキンマンの言葉に対して「いまのは、ちくちくことばだよ」と、お友達と話をしていたそうです。また、泣いているお友達を心配して「大丈夫?」「どうしたの?」と声を掛けてくれる姿もあります。「だめだよ」「もう遊ばない」などのちくちく言葉も聞こえてきます。そのような時はお互いの思いを受け止めながら、仲裁に入っています。ちくちく言葉より、ふわふわ言葉が増えていくといいですね。

また、『職員から子ども達へ』思いやりボードに掲示されたメッセージには・・・
♪いつも、わんぱく農園の野菜の収穫をお手伝いしてくれて、ありがとうございます。
♪お友達の水筒や、お部屋の本棚の整理整頓をしてくれてありがとう。
♪お部屋の消毒をしてくれて、「どうもありがとう」と言ってくれて、温かい気持ちになりました。先生からも、「ありがとう。」



心が温まる嬉しいエピソードがさらに増えるといいですね。

<おもいやりテーマ> **ふわふわことばとちくちくことばをかんがえよう**
年間を通して実践していきましょう

思いやり3原則（手伝う・励ます・ありがとう）

- ①手伝う（他の人のために 喜んで手伝おう）
- ②励ます（元気づけよう、応援しよう、優しい心を送ろう）
- ③ありがとう（感謝の心で ありがとうを伝えよう）

「あ～さ行」の読み札の文章が集まりました。一部、紹介します。
※採用作品はまだ未定です。保護者会役員に協力いただき最終選考予定です。

- ㊦ りがとう ころをこめて かんしゃして
㊦ かたづけ おもちゃもきつと よろこぶね
㊦ さんたくものを たたんでくれて ありがとう



引き続き、たくさんの思いやりあふれる言葉をお待ちしています。

子どもの『共感力』とは**【思いやりの心】**です。

子どもの思いやいを育てるには…。

共感力の3つの要素

1. 相手の気持ちを想像できる



2. 相手の気持ちは自分と違うことがわかる



3. 人間にはさまざまな気持ちがあると知っている



相手の気持ちを想像することは、共感力の重要な要素の一つです。相手の表情や行動から気持ちを想像し、声をかけたり、話を聞いたりすることが「思いやり」の行動に繋がります。

共感力を持つためには、自分と相手を切り離し、相手の気持ちを考えてみるのが大切。自分の情緒が発展することで、相手の気持ちを想像する力も高まり、共感力も高まっていくようです。子どもの感情の種類は、5歳頃になると大人と同じ感情を持つようになるという研究もあるそうです。



相手の気持ちを考えられるようになるには…。

子どもの共感力を高める親のサポート

1. 相手の気持ちを想像することを促す
2. 物語の登場人物の気持ちを想像させる
3. 子どもの気持ちを一緒に言語化する



共感力を高めるためには、親のサポートも大切です。様々な場面で相手の気持ちが想像できるように、例えば、喧嘩をして友達を泣かせてしまった時は「友達はどうな気持ちだったと思う？」など質問してみるとよいでしょう。同時に、「泣かせてしまったとき、どう感じた？」など、子ども自身の気持ちを聞いてみることもいいですね。又、子どもの気持ちを一緒に考え、言葉にすることも大切です。例えば、泣いている子どもに対しては「つらかったね」「悲しかったね」など言葉にして伝えると良いでしょう。感情を言語化することで子どもは気持ちの整理がつき、気持ちと言葉が対応するようになります。その結果、感情について言葉でやり取りができるようになり、相手と共感し合うこともできるようでしょう。

共感力を高めるには、相手の気持ちを想像させることや気持ちを言語化することが大切です。親とのコミュニケーションを通して学ぶことも多いため、子どもの気持ちを考えながら様々な話をしていきましょう。思いやり（共感力）を持つことは、多くの人と信頼関係を構築できる、困った人を助けてあげられる、という良いところがあります。円滑なコミュニケーションにより人間関係が広がり、喜びを共有できる機会や楽しい場面も増えるでしょう。

